

最終章・ゆとり教育世代の地域教育

あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

〇〇82



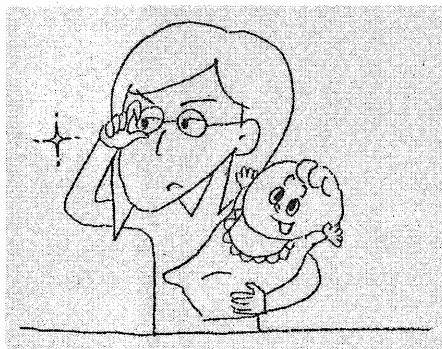
ゆとり教育世代の子どもたちは、親の世代に比べると、幼いころから怒鳴り声を聞かずに育ってきていると思います。私たちは子どもものころ、「バカ、カバ、お前の母ちゃん……」などと特段の理由もなく言い争っていた気がします。しかし、

母

なぜ「お前の母ちゃん」と母親を侮辱されると腹立たしかったのか、なぜ「父ちゃん」ではなかったのか不思議です。

子育ての本には「母子分離」という言葉が出てきます。溺愛しているような印象を受け、母親には嫌な響きでしょう。しかし、世の中では母国、母港、母校など、なぜか父の出番より母の出番が多いようです。確かに人は母

他人と関わる「意欲」を



親の慈しみ向き合う力に

から生まれ、乳児、幼児、児童まで母親と一緒にという安心感に包まれながら、独り立ちできるように育っていくものです。しかし、最近では自分の子が皆と一緒にいる場面から逃げたり、一人でいられないと言いついたりするシーンに出くわし、子育てに悩むケースが少なくありません。先日も高2男子の不登校の面談がありました。両親と本人を前に、私は本人の顔色を見てから「不登校の問題は母親の責任が100%です」と言い切りました。そして「父親の責任は200%です」と続けました。すると驚くほど子どもの表情が穏やかになっていきました。しばらくして私は本人に「父方の祖父母、母方の祖父母は何を職業にしていたか?」と尋ねてみました。本人は全く考えたこともなかったようです。私は「四つのお墓参りをしていますか?」と続けました。そして、父方の祖父と祖母、母方の祖父と祖母、それぞれの名字(祖母は旧姓)を尋ねました。父親と母親は困りだかからと考え、面倒だからと考え、面倒だからと考えるのを避けてばかりの生活スタイルを続けた場合、子には、独りでいる自信が付きません。子にとって母親は、ママからお母さんに、そ

のローンしておふくろへと変わっていき、やがて子どもは? その親になっていきます。様は本業で継続する社会とは生命のつながりです。母親のパートにの慈しみが、孤独と向き合う力を育み、社会の源となつていてと思います。慈しみとは子質問を続けました。母を見守る親心です。親はうなずきました。母を見守る親心です。(畑山篤志学塾塾長)

「好き」の気持ちに

教育

私が運営するパティスポート幼稚園を巣立った子どもたちは、さまざまな分野で活躍しています。それぞれ最初から入



のペース』を崩さなうにしながら、『常に挑戦し続けよう』とています。一般的に名門大学や実業団に入る事が、マラソン、究める道でしょう。し、彼はそんな「昔にとらわれるより、な市民ランナーと

— 自分の生き方を探す場所 —

「おとな大学」スタート

